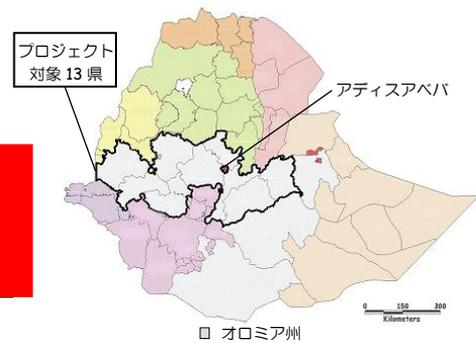




# Ho! ManaBUしんぶん

2012.2.7 No.39

子どもの笑顔に会うために！



## Ho! ManaBU 統合パッケージ、遂に完成！

～ Ho! ManaBU 研修のラインアップ ～

Ho! ManaBUでは、これまで、ガラナ(菊池洋専門家)が中心となり、学校レベルで実施するさまざまな研修を開発してきました。これらの研修は、学校と地域住民が、「気づき」「分析」「計画・行動」という3つのステップを踏んで、学校運営に対する問題意識を少しずつ深め、内発的な動機づけから自主的に行動を起こせるようデザインされています。これまで、ステップ1の「気づき」、ステップ2の「問題の分析」をテーマにした4つの研修が開発され、毎年、段階的に導入してきましたが、今年度、ステップ3の研修「計画・行動」が遂に完成しました。これで、3つのステップを扱ったHo! ManaBU 研修がすべてそろったことになります。

**<計画・行動研修>** 今回、新たに開発された「計画・行動研修」は、従来の「色とりどりの教材を使って、地域住民が楽しみながら学ぶ」というスタイルとは趣きを異にし、クラスターリソースセンター(CRC)担当官や学校長など、学校運営管理に直接かかわる人達を対象とし、計画作りについて講義形式で学んでいく正統派(?)の研修です。

研修は、まず初めにウォーミングアップとして、計画作りについてのクイズを行い、参加者の意識を試し、続いて、2つの計画を提示し、どちらが実現性が高い計画か、それはどうしてか、などを参加者みんなで考えていきます。その後、教科書にそって、「計画とは何か?」「よい計画は、何が『よい』のか?」「なぜ計画倒れになるのか?」など、計画作りについてのポイントをおさらいします。続いて、「学校の柵作り」を事例として、「状況把握」、「目標の設定」、「目標達成のための活動の抽出」、「活動の順序や日程の決定」、「財源の確保」など、計画作りの基本的なステップを学びます。そして、「中途退学」を例として取り上げ、より多角的な視点からの計画作りを学び、最後に、「教員の実力強化」を目標とした計画作りの演習を行います。

講義の色彩が強いと言っても、もちろん、そこはガラナのこと。ワークブックを使ってのクイズあり、演習ありと、変化に富んだ構成で、参加者を飽きさせない工夫が凝らされています。また、研修は基本的に

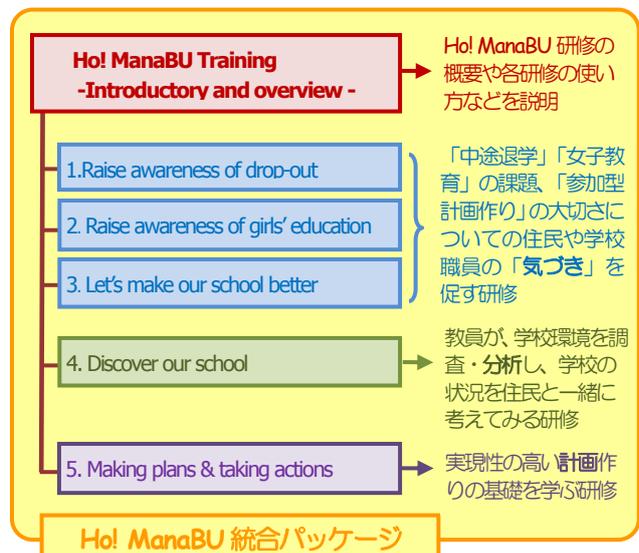
はパワーポイントを使って進められますが、遠隔地の小学校でも手軽に研修ができるよう、フリップ版の研修スライドも用意しました。

この計画・行動研修は、今月、開催されるHo! ManaBU ワークショップ(後述)で、いよいよお披露目です。計画は作ったけれど、住民から資金が集まらなかったら、「仕方ない」とあきらめていた校長先生がどんな反応をするか楽しみです。



オロミア語で書かれた計画・行動研修の教科書(左)とワークブック(右)(英語版もあり)

**<統合パッケージ>** Ho! ManaBU の各研修は、単体として使っても、もちろん効果はありますが、各研修の目的や関連性を十分理解し、総合的に使うことで一層効果が上がります。そこで、プロジェクトでは、これらの研修を学校が効果的に実施できるよう、Ho! ManaBU 研修の概要や各研修の使い方などを説明した「Overview and Introductory (概要と序論)」ガイドブックを作り、全研修を「統合パッケージ」としてまとめました。各研修の目的とそのつながりは以下の通りです。



\*Ho! はオロモ語で Hoggansa (運営) の最初の二文字、ManaBU は Mana Barnoota Ummataa (コミュニティの学び舎) の略で、本プロジェクトが支援する地域社会に根ざした小学校運営のことです。

また、今回の統合パッケージ作成作業の一環として、「Let's make our school better」と「Discover our school」については、研修の内容や教材を簡素化し、さらに簡易版のマニュアルとして「ファシリテーターハンドブック」が作成され、より使いやすい改訂版を作りました。



「Let's make our school better」と「Discover our school」のファシリテーターハンドブック

すでにお伝えしているように、この統合パッケージのうち、中途退学と女子教育の啓発研修は、オロミア州教育局（OEB）が音頭を取り、「OEB 主体計画」として州内全域への普及を進めています。プロジェクトの目標は、この2つの研修を含めたすべての研修を「統合パッケージ」として、OEB が全州に普及できるだけの研修実施管理能力を高めることです。この目標達成に向け、まずは、プロジェクト対象13県で統合パッケージの実施を支援し、その成果を踏まえ、OEB と全州普及のための協議を続けていきます。

## Ho! ManaBU ワークショップに向けて ～ 州トレーナー養成研修報告 ～

Ho! ManaBU では、新しく開発された Ho! ManaBU 研修のファシリテーション習得とモニタリング報告の能力向上を目的として、プロジェクト対象13県の教育行政官、CRC 担当官、学校長などを対象に、毎年度、Ho! ManaBU ワークショップ（以下、ワークショップ）を開催しています。

今年度のワークショップは、2月2週目から開催されます。通算3回目、そして、プロジェクトとしては最後となる今回のワークショップは、これまでのものとはいくつかの点で大きく異なります。

まず、プログラムの内容です。今回のワークショップは、①新しく開発された Ho! ManaBU 「計画・行動」研修、②モニタリング報告研修のほか、③Ho! ManaBU 研修「Overview and Introductory」を通じた統合パッケージの紹介、④Ho! ManaBU 研修「Let's make our school better」と「Discover our school」改訂版の実演、⑤「授業研究」をテーマにしたビデオ教材の実演、そして、⑥供与機材（パソコン）の活用方法の紹介など、Ho! ManaBU 活動の集大成とも言える内容を全4日間の日程でこなしていきます。

また、開催形態も異なります。これまでのワークショップは、プロジェクトの日本人専門家とエチオピア人スタッフが、トレーナーとして対象県13県10都市を巡回して直接行ってきました。今回は、これら13県を対象としたワークショップをすべて首都アジス・アベバの赤十字研修センターを会場として開催します。また、トレーナーは、OEB 主体計画を通じた統合パッケージ普及準備の一環として、同計画を通じて「中途退学」「女子教育」を普及した際に州トレーナーとして養成された教育行政官、CRC 担当官、学校長が、その業務を担当します。これに関連し、前回の OEB 主体計画州トレーナー養成研修参加者のうち約30名を対象に、2月1日から5日まで、赤十字研修センターでワークショップ州トレーナー養成研修を開催しました。

研修では、まず、参加者に4日間のワークショッププログラムの内容を理解してもらい、その上で、指示の出し方や時間管理など、州トレーナーとして心得ておくべき留意事項を確認していただきました。



「計画・行動研修」のセッションで参加者からの質問に答える OEB 計画課エキスパートのナビウ氏。

研修初日には、OEB から広報課の職員が取材に訪れ、また、「計画研修」の日には、OEB の計画課エキスパートであるナビウ氏が参加し、一緒に演習に参加したり、参加者からの質問に答えたりして、セッションを盛り上げてくれました。そして、最終日は、各班に分かれて、グループごとに担当セッションの練習や配布物の確認をして準備完了。県の行政官から小学校の校長までが協力し

合って一生懸命にワークショップの準備をする姿に、プロジェクトチームも励まされました。「僕の県では800人の教員を対象に研修をしたことがあるからね。大丈夫、心配いらないよ。」と声をかけてくれる参加者



ワークショップの準備をする州トレーナー達。

もいました。この研修の終了後、すぐに翌日2月6日から9日まで第1グループ（6県）、そして、13日から16日まで第2グループ（7県）のワークショップが続きます。このしんぶんが発行される頃には、州トレーナーが、連日、奮闘していることでしょう。ワークショップの様子は次号のしんぶんでご報告します。お楽しみに！

\*Ho! はオロモ語で Hoggansa（運営）の最初の二文字、ManaBU は Mana Barnoota Ummataa（コミュニティの学び舎）の略で、本プロジェクトが支援する地域社会に根ざした小学校運営のことです。

## チームで働くことのダイナミズム ～ その① 菊池ガラナ帰国の弁 ～

メール配信用の「ひとりごと」じゃなくて、この本編に本人が登場するのはそういえば久しぶりのような気がする菊池ガラナでございます。

で、今回申し上げます口上は、お別れの挨拶。足かけ3年、計5回、合算すると1年半ほどもこのプロジェクトでお世話になったこととなります。アタリもハズレも含め、ずいぶんといろんなものを作らせていただきました。わけでも一番最初に作った「中途退学」「女子教育」はHo! ManaBUのヒット商品とも言っていたが、いまだにちゃんと使われているだけでなくOEB主体計画の波に乗って、はるか全州にまで流れつつあるという、いや、まったく幸せな教材たちです。

周りの皆さんからも時折「制作者冥利につきるでしょ？」なんてお言葉をいただくこともあり、それはもちろん間違いではないのですが、自分的にはこの「冥利」というのは、もうちょっと違うところにある感じがしています。自分が考える冥利というのはそれが広まっていくことよりも、それが生まれた瞬間に立ち会えたことにある、ていう感じかな。自分で考えて自分で作ってるわけですから「立ち会う」というのはおかしいかも知れませんが、こういうのって、一人でできることって、たかが知れてるんですよ。周りからいろんな知恵やアイデアをもらいながらそれがカタチになっていくわけで、とりわけ、ヒットが生まれる瞬間、ていうのは、人や時のめぐり合せだったり、その時、その場の位置エネルギーみたいなものが、うまく噛み合った時なのだと思います。その時の自分というのは、ひとつの触媒みたいなものになっていて、周りからのアイデアや想いや、「ノリ」なんかをどんどん放り込んでもらって、それが、ガチャガチャ・ボン、とカタチになっちゃう。それをナナメ上からよーし、よーし、と眺めているような感覚。それがね、醍醐味。これってつまり、チームで働くことのダイナミズムとか快感、なんだと思います。もちろん、いつもそういう祝福された瞬間ばかりが訪れるわけではないけれど。

どんな仕事であれ、それはきっと何かを作っていることに違いはないわけで、そして完全に孤立して仕事をしている人、ていうのもおそらくいません。だから、これを読んで下さっているすべての皆さんに、1回でも多く、そういう幸福な瞬間が訪れますように。そしてそこから何か面白いもの、ダイナミックなものがポンポン生まれますように。

ではでは、またどこかでお会いしましょう。

## ただひたすらガラトーマ ～ その② 五十嵐ハウィ帰国の弁 ～

Ho! ManaBU しんぶん読者の皆さま、五十嵐ハウィでございます。この度、3年間の任期を終え、2月25日に帰国することになりました。

フラ（野邊節さん）やデラルトゥ（藤目春子さん）に遅れること半年、2009年2月末に着任してから、しばらくの間はプロジェクトの中での自分の役割をどう作っていくか、迷った時期でもありました。が、間もなく、菊池ガラナが赴任し、不朽の名作「中途退学」や「女子教育」などの啓発研修が完成。この研修の登場で、Ho! ManaBU の活動路線が決定づけられ、その後は、ただただ楽しく仕事をさせていただきました。

ところが..! 昨年7月に野邊リーダーが離任され、プロジェクトのまとめ役を引き継ぐことになり、OEB主体計画実施支援という、大仕事に取り組むことになりました。ある意味では、このような時期にリーダーを務められたことは大変幸運ではあったのですが、プロジェクトチームの面々に迷惑をかけた部分もかなりあり、これは大きな反省として心に残っています。

実は、今、私は、この原稿をHo! ManaBU ワークショップの初日が終わった後に書いています。生き生きと研修を進めるトレーナーや参加者を見て、「この人達ともう少し仕事をして、Ho! ManaBU がどうなるか見てみたいな。」という強烈な欲求がわき上がりました。でも、きっとそのような気持ちになるのは、Ho! ManaBU が大きく成長した証拠であり、それはまた、私の務めが終わった証しでもあるのでしょう。

振り返ってみれば、我らが兄貴フラをはじめ、デラルトゥ、教材王子ガラナ、バシャデュ（廣瀬悠子さん）、チャラ（加藤康彦さん）、エチオピア人スタッフと、よき仲間にも恵まれました。また、Ho! ManaBU がこれだけ楽しくできたのは、律義なOEB職員や地方教育行政官、熱心な学校関係者のおかげです。このようなプロジェクトに携わることができて、大変光栄に思っています。これからもHo! ManaBUのますますの発展を祈っています。Ho! ManaBU をご支援いただきました皆さん、どうもありがとうございました。

ガラトーマ！（オロミア語で「ありがとう」と意味）

